



8月26日と9月2日に、5年生を対象に、盲導犬体験教室を行いました。クラスごとに、2グループに分かれて、体育館で目の不自由な方の生活や盲導犬について説明を聞いたり、盲導犬との体験歩行をしたりしました。また、教室で「盲導犬クイールの一生」のビデオを視聴しました。児童の感想の一部を紹介します。

1組 SR

ぼくは、盲導犬を見たことがあります。話を聞いたり、ビデオを見たりして、盲導犬になるまでに、すごく時間がかかることが分かりました。ハーネスのポケットには、「お仕事中」と書かれていることや、どこの盲導犬かが書かれていること、目が見えなくても飼うことができるための工夫されたものがいろいろ入っていることなど知って、すごいなと思いました。

2組 OM

何度かの別れを経験しているのに、だれにでもなついて、しっかりと左側につくクイールは、とてもすごいと思いました。私も、ウォルトと歩いた時は、少し怖かったけど、しっかりと左につき、ゆうどうしてくれて、目が不自由な人でも、これなら安心して行動できると思いました。

訓練所のどの犬もが、盲導犬になれるわけではないということにもおどろきました。盲導犬について、もっと知りたいと思いました。

1組 NR

ビデオで盲導犬の一生を初めて知りました。1匹の盲導犬を育て上げるのに300万円かかったとしても、盲導犬を求めている人はたくさんいるので、たくさん増やしてほしいと思います。そして私たちは、そんながんばっている盲導犬のじゃまをしないように、かわいからといってさわったり手をたたいたりしないように、協力したいと思います。

2組 KY

盲導犬といっしょに歩いて、目が不自由な人の気持ちが少し分かったと思いました。目の不自由な人も、盲導犬も、大変だなと思いました。

ぼくは、1回も盲導犬に会ったことはないけれど、目が不自由な人がいたら、声をかけてあげたいです。点字ブロックの上に自転車等をおいたり、盲導犬の仕事中に話しかけたりすることには、気をつけたいと思いました。

1組 W.T

クイールは、しつかけを乗り越えて、盲導犬になったのがすごいなと思いました。今後、盲導犬を連れていて、困っている人がいたら、自分から「だいじょうぶですか。」と声をかけてみます。目が見えない人や耳が聞こえない人がいても、差別やいじめをしないように、「みんな楽しく生活しているんだよ。」と伝えたいです。

2組 YS

盲導犬を必要としている人がとてもたくさんいて、まだまだ盲導犬が足りないことが分かって、どうにかしたいといけないうことだと思いました。もっと国も、盲導犬の育成に協力していかないといけないと思いました。まだ、盲導犬の大切さに気づいていない人もいると思うので、盲導犬のデモンストレーションはいいことだと思いました。目の見えない人の不自由さを知ると、盲導犬のありがたさがよく分かります。そして、人と人のきずなと同じくらい、盲導犬と人のきずなも深いことが分かりました。

紙面の都合で、長い感想の一部のみの紹介です。この体験教室から、たくさんのことを感じ取ったことが分かりました。5年生は、この後、総合的な学習の時間で、福祉をテーマに調べ学習をしています。その学習成果を、10月26日の学習発表会で発表します。

盲導犬との体験が、いろいろな所で企画されています。
詳しくは、東日本盲導犬協会のホームページをご覧ください。

